

日本チェコ友好協会からのお知らせ

2022年2月11日

2022年がスタートしました。本年最初のイベント、ホルプ先生のプラハからの中継で開催したオンライン講義には、たくさんの皆様にご参加いただきありがとうございました。チェコの総選挙、チェコ近隣諸国の状況など、目が離せないEUの今を垣間見ることができました。講演要旨を添付いたしますのでご覧ください。講演会などで会場で皆様と一緒に話し合うことができる日が待たれます。次のイベントは阿部先生の講演会第二弾です。第一弾の要旨も同封しました。色々な制限の下ですが出来るだけの活動をしていきたいと思っております。皆様のご参加をお待ちいたしております。

「現代チェコ文学入門」第二弾 阿部賢一先生 ZOOM 講演会

【ヴァーツラフ・ハヴェルの戯曲世界】

チェコを中心とする中欧文化研究の第一人者、阿部賢一先生による「現代チェコ文学入門」第二回です。

日時： 2022年2月24日(木) 午後7時半から8時半

講師： 阿部賢一 東京大学准教授

演題： ヴァーツラフ・ハヴェルの戯曲世界



概要：1989年12月、ビロード革命後のチェコスロヴァキアで、一夜にして大統領になったヴァーツラフ・ハヴェル。社会主義の時代には『力なき者たちの力』など政治的エッセイを発表し、反体制派の知識人として活躍したことはよく知られています。その一方、彼の戯曲が十分に知られているとは言えません。没後十周年を迎えたこの機会に、主要な作品を朗読しながら、ハヴェルの戯曲世界の魅力を探求していきたいと思っております。

開催方法： Zoom システムによるオンライン講演会（スマートフォンでも参加可能）

会費： 会員 無料 非会員 1000円

お申込み： [email](mailto:czfriend@outlook.jp) での登録をお願いします。お申込みいただいた方に当日の URL を送付します。

先着 100 名で締め切ります。申込先 czfriend@outlook.jp

会費振込先：三菱UFJ銀行 渋谷支店 普通口座 3524843 日本チェコ友好協会会長 高橋恒一

三井住友銀行 渋谷駅前支店 普通口座 3511197 日本チェコ友好協会会長 高橋恒一

【ヴァーツラフ・ハヴェルの戯曲発売のご案内】

チェコ共和国初代大統領として知られるヴァーツラフ・ハヴェルの戯曲二作品をまとめた『通達／謁見』（阿部賢一・豊島美波 訳）が松籟社より今月発売となります。戯曲家ハヴェルによる 60・70 年代をそれぞれ代表する作品です。

両作品のあらすじは次の通りです。

『通達』

十二場からなるこの作品は、誤解をもたらすことのない、きわめて精確な人工言語プティデペがとある役所に導入されたことで翻弄される人びとの様子が描かれている。熱血漢のグロスは局長であるというのに、人工言語の導入を知らされていない。導入を秘密裏に進めていた局長代理バラッシュは、無言のクブシュとともに、グロスの包囲網を張り巡らす。かたや、極めて難解なプティデペの授業が行なわれたり、翻訳センターの面々も登場するが、前者では言語の構造についての疑似学問的な解説がなされ、後者では翻訳とは無関係な日常会話ばかりが披露される。グロスはバラッシュと役職を交代し、プティデペの導入を阻止できたものの、今度はホルコルという新しい人工言語が導入される……。

『謁見』

本作に登場するのは、インテリの作家フェルディナント・ヴァニェクとビール醸造所の醸造長の二人のみ。作家ヴァニェクは、何らかの理由で自作の発表ができず、あるビール醸造所で肉体労働をしている。ある日、上司の醸造長に呼び出されたところから、作品は始まる。醸造長はビールを飲めないヴァニェクに対して、ビールを次々と勧めながらあれやこれやと脱線しながら、二人の会話は続く。そして醸造長がヴァニェクを呼び出したのは、当局に提出するヴァニェクの報告書を本人に書いて欲しかったからだということがわかる。つまり、自分の密告書を自分で書くという不思議な状況にヴァニェクは置かれたのだった。

チェコ語講座 オンラインです！

協会発足以来続いているチェコ語講座はオンラインで開催しています。通学に時間が取られない、集中できると受講の皆さんからは好評です。今後も語学講座はオンラインで継続する予定です。ご多忙な方、遠方の方でも手軽にご参加いただけます。パソコンがあれば簡単に聴講できる、Zoom システムを使用しています。この機会にどうぞお試しください。

(お問い合わせ: 090-3241-7256 担当: 村田 Zoom が初めての方もどうぞお気軽に！)

費用: 全クラス 5 回 1 万円 (途中参加の場合は 1 回 2,000 円として残額)

毎週水曜日 開催 (祝日に当たるときは休講です。)

中級継続クラス: 18 時から 19 時半 入門クラス: 19 時半から 21 時 (現在休止中。)

日本チェコ友好協会のホームページが新しくなりました !!

日本チェコ友好協会の HP は、テクニカル・トラブルでしばらくの間更新されない状態となっていて、ご迷惑をお掛けしておりました。このほど画面構成を一新した新しい HP を立ち上げました。URL は従来と同じく <http://www.czechfriend.jp/> です。現在デバッグ中ですが、すでにご覧いただけます。スマホからも利用可能です。



チェコ関連情報

チェコ大使館よりチェコ政府奨学金のご案内

大使館の HP に新年度のチェコ政府奨学金の案内が掲載されたのご連絡をいただきました。2 年間の奨学金とサマースクールの奨学金についての情報です。申し込みのフォームが新しくなっているそうです。どちらの奨学金もアプリケーション締め切りは 3 月 11 日となっています。

https://www.mzv.cz/tokyo/ja/x2005_07_07_3/x2006_11_21/index.html

チェコセンター情報

展示「夢うつつの世界へ 近代チェコ文学に描かれる〈日本〉」

19 世紀の終わりから 20 世紀前半のチェコでは、日本旅行記や日本文化を扱うさまざまな著書ばかりではなく、〈日本〉を舞台にした小説も驚くほどたくさん出版されています。本展では、近代チェコ文学の一特色をなす〈ジャポニズム文学〉の代表的作家やその作品を紹介しながら、日本と日本文化に触発された文学ジャンルの歴史とその魅力を照らし出します。また、会期中には関連シンポジウムがオンラインで開催予定です。

会期: 2022 年 2 月 15 日 (火) ~ 3 月 30 日 (水) 開館時間: 10:00 ~ 19:00

※土日・祝日は休館となります。 ※3 月 5 日 (土)、26 日 (土) は 特別開館いたします。

会場: チェコセンター東京 (チェコ共和国大使館内) 入場無料

ホルプ先生の年頭講演を聴いて

高橋恒一

年頭の恒例行事となっているカレル大学のホルプ教授の講演会が、1月13日に約20名の方にご参加いただきオンラインにより開催されました。演題は「2022年のチェコ及びEU諸国の政治情勢-5つのテーマ」で、日本の報道だけではなかなか十分なフォローが難しい欧州の政治動向を5つのテーマにまとめ、分かり易く説明していただき、とても参考になりましたので概要をご報告します。

1. 先ずチェコにおいては、2021年10月の下院選挙で「反バビツシュ前首相」で結集した5政党が、200議席中の108議席を獲得し、ペトル・フィアラ ODS 党首を首相とする5党連立政権が成立した。新政権は、一応過半数を確保しているものの、再び緊迫化しつつあるコロナ禍、インフレの昂進更にはEUの環境政策やエネルギー政策への対応等の困難な課題が山積している中で、野党側ではバビツシュ前首相を始め政治経験豊富な強者が手ぐすねを引いているので、その議会運営には前途多難が予想される。
2. チェコの近隣諸国においても、政治情勢の大きな変化が見られる。ポーランドでは保守政権がカトリック教会と連携して人工中絶などについての保守的な立法を進めているが、その一部をEUが問題視し論争となっている。ハンガリーにおいても、オルバン政権の強硬な反移民政策がEUにより批判されているが、同政権は国民の支持を背景に強い姿勢を崩していない。またスロバキアでは、政府が進めているNATO軍の同国駐留に関する米国との軍事協定の交渉に野党が強く反対し、緊迫した事態になっている。更に長らく安定した議会制民主主義国というイメージが定着していたオーストリアにおいて最近の二ヶ月間に首相が政治的スキャンダルで2度も交代するという異常な事態が発生している。
3. ドイツはこれまでの16年間メルケル首相の強い政治的リーダーシップの下でEUを支えてきたが、2021年に独の政治情勢は激変した。すなわち9月の下院選挙の結果、歴史上初めて社会民主党、自由民主党及び緑の党という政策が異なる3政党による連立政権が誕生し、12月にはメルケル首相が政界から引退したからである。この3党連立政権を率いるオラフ・ショルツ新首相は、手堅い実務家タイプの政治家であり、メルケル前首相のような政治的リーダーシップの発揮は困難と観られている。こうしたドイツ内政の大きな変化が、今後のEUの政策決定に如何なる影響を及ぼすか今後の推移が注目される。
4. EUにおいては、2022年前半はフランス、後半はチェコがEU理事会(サミット)議長国となる。こうした中で仏では4月に大統領選挙が行われる。マクロン大統領としては理事会議長ポストを同選挙に利用しようと考えているが、反マクロン派の勢力は、拡大しつつあるとみられ、既に3-4人の強力な対立候補が名乗りを挙げている。また、これまでEU運営の中核となっていたいわゆる「独仏枢軸」についても、温暖化対策の切り札となるクリーン・エネルギーとして原子力発電を推進している仏と、脱原子力政策を決定済みの独との間で重要な環境・エネルギー政策における立場の相違が顕在化している。なお、この点についてチェコは、仏の政策に賛同している。
5. 最後に安全保障政策についてのロシアとNATOとの対立が激化しつつあることが注目される。ロシアは、NATOの東方拡大に反対し、1989年の時点で、NATOは東方拡大をしないと約束したと主張している。これに対しNATOは、1989年以降、東欧や南欧諸国の加盟を認め、NATOに加盟するか否かは、当該国が自分で決めることであると反論し、議論は平行線をたどっている。特にウクライナについては、今週、毎日のようにロシアとNATO・EUとの間でハイレベルの折衝が行われているが、両者の立場は余りにも隔たっているため、早急な妥協は困難と思われる。

いずれにせと2022年前半に欧州情勢は大きく変動する可能性があることを念頭に置いて今後の動向を注意深くフォローしていく必要がある。

阿部先生の講演「ボフミル・フラバルの辿った道」を聴いて

高橋恒一

一昨年カレル・チャペックの「ロボット」について講演して頂いた東京大学の阿部先生が、今年の11月26日に「現代チェコ文学入門第1回講演会」として、「ボフミル・フラバルの辿った道」と題するオンライン講演をしてくださいました。同講演は、「わたしは英国王に給仕した」を中心にフラバルの作品における道教の影響を検証しつつ、フラバルの辿った道程を探るもので、フラバルが如何なる考えを持ち、どのように生きたかを理解する上で大変示唆に富む面白い内容でしたので、私が理解できた範囲で要約し報告いたします。

ボフミル・フラバル(1914-97)は、20世紀後半のチェコ文学を代表する作家である。ニムブルクのビール醸造所の家庭で幼少期を過ごし、プラハの老舗ビアホール「黄金の虎」に常連として通うなど、ビールと生涯を共にした。製鉄所、古紙回収所などで勤めた後、1963年に作家デビュー。1970年代に作品の公表の可能性が奪われたが、生涯、国内に留まり、作品を書き続けた。この点でフラバルは、反体制派の論客として活動し、ビロード革命後に大統領に選出されたヴァーツラフ・ハヴェルや1968年に仏に亡命し、同地で亡命作家として作品を発表したミラン・クンデラのような共産主義体制と戦った同時代の作家とは、異なる道を歩んだといえる。



@ Wikipedia

フラバルは、あるインタビューで「私は、毎年、老子の『道教』を読んでいる。」と述べており、また彼の作品には道教を意味する「道」という言葉が、何回も出てくる。

こうしたことからフラバルにとって道教は、作家としてのインスピレーションの源の一つであったと考えられる。老子自身が作品に登場するのは、「余りにも騒がしい孤独」である。同作品では、発禁本の処理をする古紙回収所で35年間働いているうちに心ならずも古今東西の偉大な思想を学んでしまった主人公が抱く幻想の中に、感じの良い若者のイエスキリストと一緒にしわくちやの老人の老子が登場する。そして生をまっとうするためには、何事にも執着しすぎてはならないという老子の教えが紹介される。

見えない形ではあるものの、老子の哲学を最も明確に表現している作品が、「わたしは英国王に給仕した」である。同作品は、百万長者になることを夢見て給仕見習いとなった小さな村出身のジーチェ(ジーチェはチェコ語で「子供」の意味)の波乱万丈な人生を20世紀のチェコの歴史を背景に描いたものであり、そのあらすじは次の通り。

ホテルの給仕見習いとなったジーチェは、支配人から「おまえはここで、何も見ないし、何も耳にしない。しかし同時にすべてを見て、すべてに耳を傾けなければならない。」と教えられ、この教えを守って給仕として一人前になっていく。ズデーテン問題(ドイツとの国境地帯にあり、約300万人のドイツ人が住んでいたズデーテン地方のドイツへの併合問題)を巡りチェコスロバキアとナチスドイツとの関係が緊迫化する中で、ジーチェはズデーテン地方出身のドイツ女性と恋に落ち、併合後に結婚する。第二次世界大戦が始まると彼女は従軍し、どこかでユダヤ人から高価な切手を強奪し持ち帰る。ジーチェはその切手を売った金でホテルを購入し、戦後は百万長者になる。しかし、1948年に共産党独裁体制になると、全財産を没収され、神学校を改造した集団収容所に収監される(この集団収容所の話は実話であり、いかにも作り話に見える話が多いのもフラバルの小説の面白さであり、同時に怖いところでもある)。その後ジーチェはカルロヴィ・ヴァリに近い小さな町に送られ、国外追放になったドイツ人労働者が残した森の小屋に住み、思い通りにならないことがあっても、腹を立てず、運命を呪うこともなく、黙々と道路整備の仕事に専念しながら平静に自分の人生を振り返る。

ハヴェルやクンデラのように明確な反体制的行動を取らなかったフラバルの立ち位置についてはグレーであまいな所があり、一部の作品の発表が認められた時期があったことから、体制に順応したのではないかと批判する向きもある。しかしながら「道常無為」(道はいつでも何事も為さないでいて、しかもすべてのことを為している。)と説く道教を信奉していたフラバルは、むしろ何もしないことの積極的な意義を考えていた可能性がある。あからさまな政治的活動ではなく、「給仕」の、更には「傍観者」のまなざしで、あらゆる土地のあらゆる社会階級をよく見た証人として作品を書くことが、作家としての自らの使命だと考え、百万長者になることを夢見ていた主人公が最後に「お金」以外の価値を見出すというこの小説を書いたのではないか。グレーであるからこそ見えてくるものがあるのであり、フラバルは、グレーの立ち位置を守ることにより、20世紀にチェコが経験したナチスドイツへの併合や共産党支配などの受難の歴史と激動する政治情勢に翻弄される主人公の人生を重ね合わせて見事に描いたこの傑作を後世に残すことが出来たのではないかと考える。

チェコ料理 第10回 チェコ風ポテトスープ Bramboračka

チェコ料理研究家 村田祐生子

どの国の家庭料理でもスープは欠かせません。チェコでは代表格がこのポテトスープ「ブランボラチカ」です。バターと小麦粉でとろみをつけたスープにジャガイモと根菜類がごろごろと入った素朴さが魅力です。寒い季節、外から帰った時に口にするブランボラチカは冷えた体を芯から温めてくれます。チェコ語では **Bramboračka** と書きます。チェコ語でジャガイモのことを **brambory** (ブランボリー) といいますから、ほぼそのままのスープの名称です。チェコ料理の大抵のレストランのメニューには必ずありますし、プラハでは“U Fleků”のような有名ビアホールでもメニューに載せています。だれにでもあう野菜を中心にした優しいスープですから、この名前を覚えておくと旅先でも安心です。



手持ちのレシピ本「おばあちゃんの作り方」Poklady というレシピを参考に日本で手に入る材料で割り出したレシピをご紹介します。チェコらしいスパイスの取り合わせ、マジョラムとニンニクがポイントです。まだまだ寒さが続きます。寒さの一段と厳しいチェコの冬の定番をぜひ一度お試しください。

<材料>

玉ねぎ 中1個
ニンジン 中1本
セロリ 1本
ジャガイモ(メークイン) 2個
乾燥パルチーニ 5-10g
バター 40グラム
小麦粉 大さじ2
ニンニク 1片
マジョラム(乾燥) 大さじ1

パセリ

水 800cc ブイヨンキューブ 1

<作り方>

1) ニンジン、セロリ、玉ねぎはダイスに切る。ジャガイモはほかの野菜よりやや大きめに切る。乾燥パルチーニは20分くらい水で戻す。

2) 鍋にバターを溶かし、ニンジンとセロリを入れる。3分くらい炒め、玉ねぎを加える。玉ねぎが色づき始めたら小麦粉を加えさらに炒め、クミン、ニンニクを入れる。

水とブイヨンを加えて泡立て器で混ぜながら沸騰させる。

3) 沸騰したらジャガイモとパルチーニを加え、15分静かに煮る。マジョラムを加え、塩、コショウで味を整える。出来上がりにパセリを散らして完成です。

